

■ 第 20 回医学・看護学教育ワークショップの報告

数年前より、我が国の大学教育においては、学生の学力低下、定員割れ、大学と社会のニーズとの乖離など、さまざまな問題点が挙げられるようになりました。教育の質の確保などを含めた大学改革を推進することが文部科学省より提言され、現在、当大学医学部においても、公的教育機関としての存在意義を「見える化」することが求められています。

そのような背景の中で、医学部全体の教育を俯瞰し、問題の解決策を考えることを目的として、「医学・看護学のカリキュラム・プランニング再考」と題し、平成 24 年度の医学・看護学教育ワークショップが 8 月 31 日に開催されました。

午前の部は、佛淵学長より「佐賀大学に求められる大学改革実行プラン」について特別講演があり、その後「医学部における教育の現状」について 4 名の講師からの講演がありました。

午後は、60 名の教員が 10 グループに分かれ、基礎医学、臨床医学、看護学、大学院教育などについて、短期的、長期的視点に立ち、熱心な討論を行ないました。参加教員の教育にかける熱意は、他の教員を鼓舞することにつながり、専門や所属部門の異なる教員がこのように集まって学ぶことの有用性をあらためて感じました。

(江村正)



■ 平成 24 年度オープンキャンパスについて

高校生を対象とした佐賀大学オープンキャンパスが 8 月 9 日に開催され、医学部においても、大勢の高校生や受験希望者が訪れました。

臨床大講堂において午前中は看護学科、午後は医学科について、教員や学生による学部・学科紹介や体験談の紹介、平成 25 年度入試概要の説明などが行われ、各説明会では立ち見の方も出るほどの盛況ぶりでした。特に看護学科は、補助会場の小講堂も満員となりました。

説明会と並行してフリータイムでの医学部見学や模擬授業、模擬 PBL、体験実習などが行われ、いずれの企画も大盛況で、多くの参加者が医学科および看護学科における学習を体験していました。また、模擬 PBL、体験実習、個別相談などでは、数多くの学生がボランティアとして関わり、本学部の特色や魅力をアピールしてくれました。



今年の医学部参加者数は、昨年よりも増加し、800 名を越えました。全学でも、4,450 名を越え、昨年よりも約 130 名の増加となり、過去 5 年間で最高の参加者数となりました。



医学部の参加者からは、「人が優しくて温かい。環境が良く勉強しやすい。落ち着いている。親しみやすい。佐賀の地域医療の充実が期待できそう。教育設備が整っている。」などの感想が寄せられました。(学生サービス課)

■ 第 44 回医学教育学会大会へ参加して

- 学生サークル「SILS」の活動 -

SILS(Saga-univ. Instructors of Life Support)は主に蘇生措置：BLS(一次救命)・ACLS(二次救命)について学び、広めようと活動しているサークルです。活動内容は学内 BLS セミナーの開催や全国で行われているワークショップに参加しているほか、一般向け BLS セミナーの開催、AHA の資格取得など多岐にわたります。メンバーも 1~6 年生、医学科・看護科と様々です。

今回、昨年度に引き続き 7 月 27、28 日に神奈川県で行われた第 44 回医学教育学会大会に参加したことについて報告させていただきます。私たちは本大会の学生セッションで『学生が一貫して行う ACLS 実習』というテーマでポスター発表をしました。

SILS は活動の一環として医学科 2 年に ACLS・Airway(高度気道管理)の実習を担当しています。昨年度は同様のセッションにて『上級生による下級生を対象とした ACLS 実習の成果について』というプレゼンテーションをしました。今年度は昨年度の内容を受けて、授業における SILS メンバーの役割の変化と受講学生の理解度・満足度の変化について考察し、医療教育においてその一部を学生が担うことによる学習効果について検討を行ったものを発表しました。発表では大勢の先生方・医学生に活動内容について、テーマについて興味を持っていただき、貴重な意見交換を行うことができました。

また、全国各地の医学生のパresentationや諸先生方の講演を拝聴することで、見聞が広がり貴重な経験をさせていただけたと思います。

今後も SILS は学内外で活動を続けていき、機会があれば、活動内容やその成果について学会などで発表し、多くの人と情報共有・意見交換を行いたいと思っています。

教育広報部会

小田康友、市場正良、吉田和代、江村正、
幸松美智子、本間治
ご意見をお待ちしています(oday@cc.saga-u.ac.jp)

